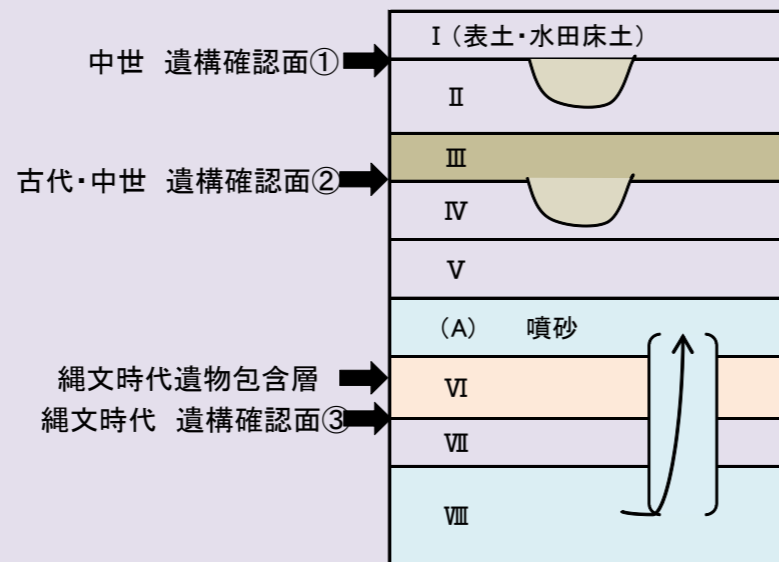
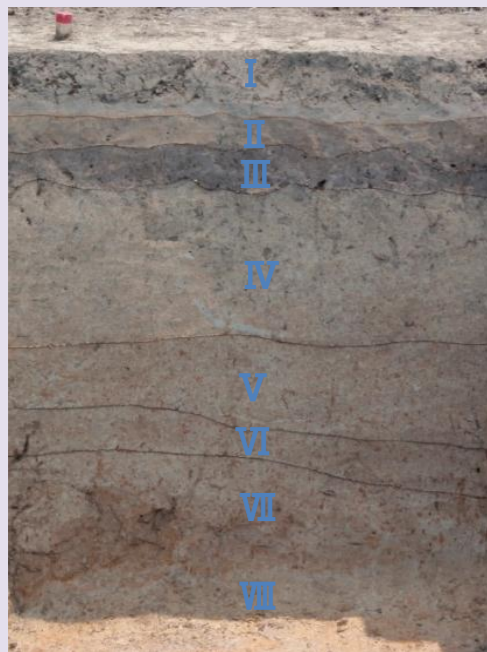


1 はじめに

山口野中遺跡の発掘調査は、一般国道49号阿賀野バイパス建設工事に伴い平成24年4月から行っており、調査面積は8,600㎡です。遺跡は阿賀野川右岸の自然堤防上に立地し、標高は約6mです。阿賀野川は大正4年(1915年)～昭和8年(1933年)をはじめとする改修工事がおこなわれ、現在は直線化されています。遺跡が存在した時代には大きく東側に蛇行しており、遺跡からわずかに1kmほどの近くを流れていたものと考えられます。

2 基本土層と遺構確認面

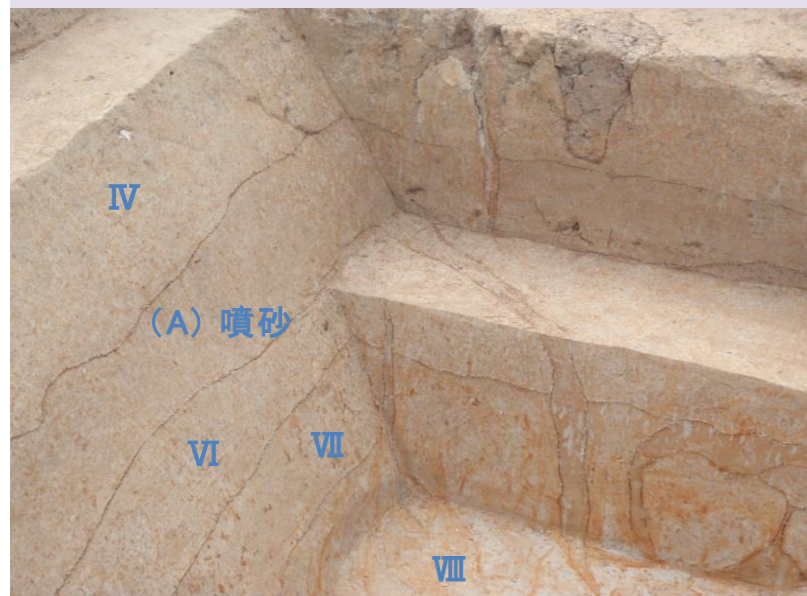
a 基本土層



基本土層

- I層: 表土・水田床土
- II層: にぶい黄褐色粘質シルト (中世の遺構確認面)
- III層: 暗褐色粘質シルト
- IV層: にぶい黄褐色粘質シルト (古代・中世の遺構確認面)
- V層: にぶい黄褐色粘質シルト(鉄分を多量に含む)
- VI層: にぶい黄褐色粘質シルト(炭化物を含む) (縄文時代の遺物包含層)
- VII層: 黄褐色砂質シルト(鉄分を多量に含む)
- VIII層: 黄褐色～青灰色砂

調査の結果、縄文時代・古代・中世の遺構・遺物が層位的に確認されています。今年度は、表土直下(II層上面)で中世(鎌倉～室町時代)の遺構を調査しています。

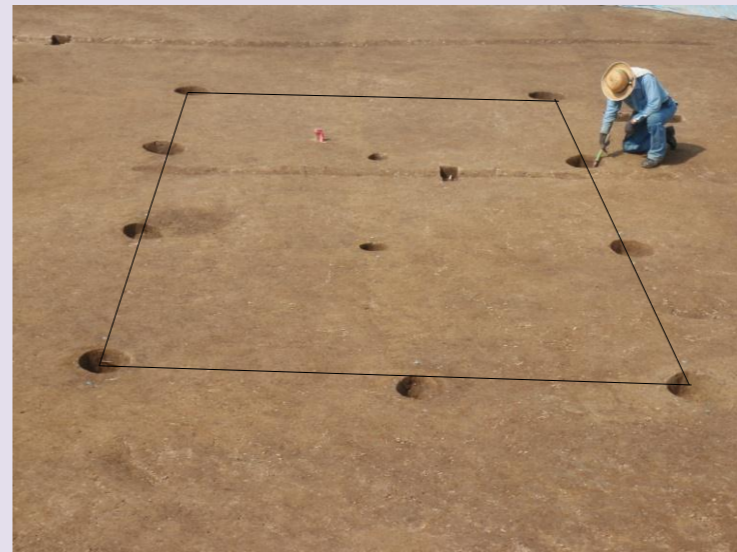


調査区内では、地震の痕跡が見つっています。現在の地表面から約2m下には砂層(VIII層)が堆積しています。この砂層が地震により液状化して砂が噴出する噴砂の痕跡が認められます。

3 遺構の概要

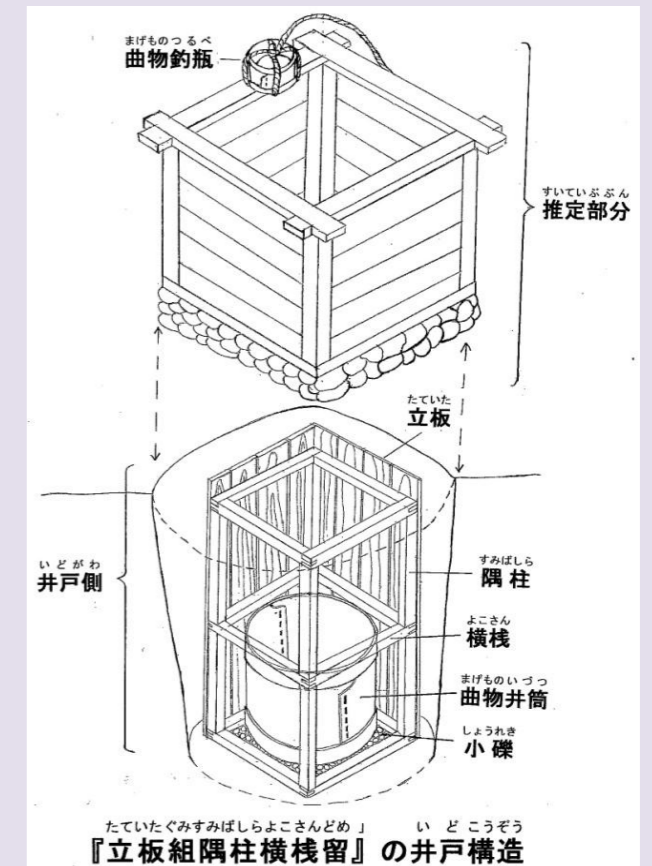
これまでに確認された遺構は、掘立柱建物・井戸・土坑・溝などがあります。建物・井戸は、調査区中央部の南側に偏って分布していることから、今年度の調査区は、集落の縁辺部にあたるものと考えられます。

掘立柱建物



SB2 完掘

掘立柱建物は井戸に近接して、3棟見つっています。建物の長軸は、いずれも北東-南西方向を示します。SB2は桁行6.8m、梁行4mの建物で、柱間は約2mにつくられています。



井戸

井戸は2基見つっており、直径は約2～4mでいずれも楕円形に掘られています。2つの井戸はともに井戸側が据えられています。井戸側は一辺約1mの正方形です。四隅には隅柱が設けられ、これを横棧で固定し、この外側に側板を縦に並べてつくられたものと考えられます。また、井戸の中からは青磁・珠洲焼・土師質土器・鉄製品・種子・焼けた礫などが出土しています。



SE38 遺物出土状況



SE38 井戸側出土状況